

第1回文化芸術部会議事概要

開催日時：令和8年6月18日（木）19：20～20：10

開催場所：名寄市役所 名寄庁舎4階大会議室

出席者：堺 卓也、堀川 真、石本 義行、草薙 進一、黒川 みどり、富田 耕一郎、
石田 十羽完、内田 明美、菅 歩、高橋 祐美

1 開 会

2 部会長の選任

- ・事務局案のとおり 部会長 堺委員 選任

3 議 事

事務局：議事（1）「文化芸術における取組と課題について」、（2）「文化芸術部の地域展開について」の説明。

L委員：5月に吹奏楽関係者を集めた会議を開催した。参加いただいた委員からご発言いただきたい。

P委員：やはり課題となるのは、指導者の確保、楽器の移動や保管場所、初心者への対応であると改めて感じた。前進した訳ではないが、多くの意見をいただくことができた。

M委員：これまでの部活動と同様にコンクールを目指した活動を行うためには、合同バンドを設立することが理想であるが、固定的な指導者や資金が課題になる。一気に取組を進めることで、既存の団体の活動に支障をきたし、団体自体が壊れる可能性もある。まずは、体験加入型としての活動を始めて、徐々に協力者を見つけていくしかないと感じている。

事務局：議事（3）「今年度の取組とスケジュールについて」の説明。

L委員：以前紹介した他市での取組のように、カレンダー形式で活動を掲載し、自由に参加できるような仕組みを検討していくため、まずは、関係団体に対し、意向調査を実施したい。その結果を基に令和9年度に向けて具体化していきたいと考えている。

J委員：エンジョイ型は生涯学習に近いものになると考えている。現在、部活動の種類が少ないため、様々な種目を体験できることは魅力であると考えている。吹奏楽部については、課題があり難しいと感じている。パート別の拠点校部活動などこれまでの部活動とは違った取組を実施する必要があるのか。

M委員：パートで別れて活動をした先に何があるかだと考える。

Q委員：自分が参加しているサークルは、夜集まったときは情報交換になることが多く、大体が自宅に持ち帰って制作活動をしている。子ども達も興味を持たせたり、自分でやりたいものを見つれたりして自宅で製作している。部活動の枠にとらわれず好きなことが出来たり、見つれたりできる環境があればよいのではないかな。

O委員：私自身、専門的な活動や楽しむ活動もどちらも指導をしているが、活動を始めるときは、楽しいという気持ちから始まるものだと感じている。そこから本気になる人もいれば、楽しく続ける人もいるため、どこからでも入っていけるシステムと指導者、資金が揃えば理想だと考える。

事務局：文化芸術活動の入り口としてエンジョイ型の活動を実施し、本気になった子は専門的な団体で活動することが考えられるのではないかな。

C委員：吹奏楽部があるため、エンジョイ型の吹奏楽活動に参加するのは、小学生が多くなると考える。そこを体験することにより、部活動に加入する人数が減ってしまうのではないかな。

事務局：部活動に加入しないという選択肢もあると考えている。部活動ではなく、楽しんで活動したいというニーズがあるのであれば、必要な活動だと考えている。

C委員：音楽に興味があって体験してみたい子どもは一定数いると考える。ただ、体験するだけでなく、発表の場を設けてあげることも考えてはどうか。

J委員：吹奏楽部がない学校に通学する生徒や、運動をしているけど音楽も体験してみたい生徒などが体験できる機会があることが望ましいと考えている。そこから本気で取り組むかどうかは本人の判断で選択することが出来る。

B委員：地域の活動や部活動など生涯学習に関わっている人が減っていると感じている中で、この取組は面白いものになると感じている。関係者を呼び寄せてもっと町ぐるみで、そして継続できる形を検討していきたい。ハードルが低いことで続くということもあると考える。まずは、中学生のニーズ調査が必要ではないかな。

事務局：ニーズ調査も必要だと考えているが、先に関係団体の意向調査を実施する。地域でできることからスタートし、その上でアンケートの意見を反映するなど、子ども達の体験したいという声も聞きながら、活動をブラッシュアップしていきたい。また、太鼓や阿波踊りなどの本市ならではの活動や軽スポーツなどスポーツを楽しむという活動も考えられる。この活動が文化芸術活動の入り口となり、人と人がつながっていくことを期待している。

J 委員：最終的に地域でできることをやるということにしかない。それが地域の特色にもつながると考える。

B 委員：エンジョイ型の活動は、関係団体の指導者にとらわれず、活動を見守ったり、一緒に活動を楽しんだりするなど地域と関わりができるのではないか。また、大学生の活用も考えられる。

L 委員：本市には、高校や大学などの資源もある。学生とのつながりや多世代交流などについても検討していきたい。

4 閉 会